allcinema

# アンデルセン物語（1952）

HANS CHRISTIAN ANDERSEN

**メディア** 映画
**ジャンル** ファミリー　伝記　ファンタジー
**製作国**　アメリカ
**色彩**　Color
**時間**　112分
**初公開日** 1953/10/24
**公開情報** ＲＫＯ

**【解説】**

“これはハンス＝クリスチャン・アンデルセンの伝記ではなく、そのおとぎ話の世界の映画化”である旨の文章で始まる、テクニカラーの見本のような色彩感溢れる美術と撮影が嬉しい童話ミュージカルの良心作。ケイはいつものおふざけはないかわりに、子煩悩ぶり（彼が晩年をユニセフの国際親善大使として児童福祉に貢献したことは有名）を大いに発揮。子供たちを学校から奪って故郷の町を追放されてしまうほどお話名人の純朴な靴屋を好演した。作詞・作曲はＦ・レッサー、地味ながら佳曲が多い。助手の少年ピーターの導きで、自分が追放者とは知らずに彼とコペンハーゲンに向かったハンス（ワルツ調の主題歌“Wonderful Copenhagen”が終わると、新聞売りの少年の声が似た旋律で響き、そして、町々の物売りたちの声がすべて音楽に聞こえるあたり素晴らしい）。早速、露店の靴修理屋を開業するが、王の銅像を汚したかどで留置所へ。ピーターは靴直しを要するバレエ団のプリマの話を聞きつけ、彼を釈放させる。ハンスは演出家である夫のニールス（Ｆ・グレンジャー）とただ互いにワガママを言い合っているだけのプリマのドロ（これが映画デビューのジャンメール）を、夫と不仲なのだとばかり思い込んで、彼女を慰めるために一編のおとぎ話を書く。その“人魚姫”をもとに彼らは創作バレエを上演。この２１分に及ぶシークェンスは圧巻で、群舞の娘たちが宙に浮く、メリエス映画のような幻想的セットが全体の調子とまるで違う（振付は王子役で踊ってもいるローラン・プティ）。結局、失恋してピーターと共に故郷へ帰るハンスは、皆に大歓迎され、フィナーレは挿入歌をリクエストに応える形でメドレーで歌って大団円となる。一人ドロを想って歌うバラード“Anywhere I Wonder 、Anywhere I along”はしんみりした名曲。

**【クレジット】**

| | | | |
|---|---|---|---|
| **監督** | チャールズ・ヴィダー | Charles Vidor | |
| **製作** | サミュエル・ゴールドウィン | Samuel Goldwyn | |
| **原作** | マイルズ・コノリー | Myles Connolly | |
| **脚本** | モス・ハート | Moss Hart | |
| **撮影** | ハリー・ストラドリング | Harry Stradling Sr. | |
| **編集** | ダニエル・マンデル | Daniel Mandell | |
| **音楽** | フランク・ローサー | Frank Loesser | |
| | ウォルター・シャーフ | Walter Scharf | |
| **出演** | ダニー・ケイ | Danny Kaye | ハンス・クリスチャン・アンデルセン |
| | ファーリー・グレンジャー | Farley Granger | ニールス |
| | ジジ・ジャンメール | Zizi Jeanmaire | ドーロ |
| | ジョーイ・ウォルシュ | Joey Walsh | ピーター |
| | フィリップ・トング | Philip Tonge | オットー |
| | ローラン・プティ | Roland Petit | |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.

| | |
|---|---|
| ジョン・ブラウン | John Brown |
| ジョン・クォーレン | John Qualen |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.